

公共コミュニケーション学会 関西部会 事例分析研究会 報告

日時 平成29年11月12日(土) 13~17時
会場 守口市役所 新庁舎1F会議室(守口市共催)
参加 67名(自治体職員・NPO・守口市民等)

1. 開会挨拶 大阪府守口市 副市長 中村誠仁 氏

2. 趣旨説明 大阪府河内長野市 広報広聴課 東映道

関西部会は、公共コミュニケーション学会の事例交流・研究発表大会をきっかけとして、関西地域で学会の趣旨につながるオープンネットワークを構築しようと、平成27年8月に設立されました。

現在、年に数回、広報やシティプロモーションをテーマとした意見交換会を開催し、広く会員内外との交流促進を図っています。入会費及び年会費は無料(ただし当日の開場費等は各自負担)です。参加者名簿を作成し、会員同士で共有しています。

3. シティプロモーション事例分析研究会

①講演【 シティプロモーションの新しい展開 】

公共コミュニケーション学会 会長理事/東海大学 教授 河井孝仁 氏

②事例発表～シティプロモーションの現況と期待について～

【街がつながる。笑顔がひろがる。～坂井市笑顔プロジェクト～】

福井県坂井市 シティセールス推進課 上田純子 氏

【「マイカタちゃいます、」その後の展開】

大阪府枚方市 広報課 浅野博美 氏

【シティプロモーションってなあに??】

大阪府守口市 広報広聴課 池田倫奈 氏

③パネルディスカッション&オーディエンス

コーディネーター 河井孝仁 氏 / パネラー 上記3氏

4. 閉会挨拶

公共コミュニケーション学会 会長理事/東海大学 教授 河井孝仁

5. パネルディスカッションの内容(要約)

- ・トップや各課の職員をどうやって巻き込んでいくのか。
- ・市民参画総量などの指標や市民意識の把握はどう設定しているのか。
- ・庁内の有志で自主研修を立ち上げる→トップが気づく→市民にも公開→課の設置へ
- ・当事者を増やしていくこと →自分事化、職員のモチベーションアップ

- ・ウェブサイトのページビューが人口増にどうやってつながるか →認知から共感へ
- ・近隣市と人口の取りあいではない連携・協力して！ →まず振り向いてもらうこと
- ・どんな人に住んでもらいたいのかメッセージを
- ・他市連携の成果はあるのか →新聞メディア掲載
- ・ウェブ調査サンプル しっかり指標をもつこと。
- ・市民が定住すみつづけたいと思う誇り 愛着 家族のように。 →シビックプライド
- ・インターナルコミュニケーションと庁内モチベーションアップ →仕事が増える
- ・庁内各課連携。各課に花を持たせること。現場をほめること。ほめる人をほめること
- ・ほめるためには、人を見ないと。成果を上げたことをトップがほめること。
- ・市民が高卒で東京に出ちゃう 愛着は8割ある。優先順位は、家族 友達 仕事
- ・出て行ってもいい。外でまちのことを発信。つながり続ける。アンバサダー育成。
- ・ロイヤルカスタマー 忠誠心の高い顧客を自治体が育てること。
- ・外に発言して、内に評価してくれる市民を育てる 共感してくれる人を大事に
- ・東京に住んでいても、このまちを気にしてくれる人をどれだけつかんでいますか。

6. 当日写真

